

京の森イルミネーション
シヨン事業報告

京の森に雄大にキラキラ輝く
イルミネーション

正山風の会 会長 吉田 博和



正山風の祭りが始まったのは

大洲市肱川町正山地区は、鹿野川ダムから国道197号線を6kmほど下り、そこから北へ約4km上った山間にあります。平成26年3月に閉校を迎えた正山小学校の運動場から北方を見上げると、標高548mの京の森がそびえています。戦前は、先祖の霊を慰める行事として盆踊りがお宮、お寺、お堂の境内で行われていました。戦後復興後、公民館活動が定着して、盆踊りを夏の行事に取り入れ「正山夏祭り」として始まりました。

昭和62年に当時の町長大野和氏が町政の場において、町起こしをしようと「風おこし」宣言をされました。当時、正山公民館分館長をされていた泉福男氏が初代会長として平成元年4月21日に「正山風の会」が発足しました。その年から、祭りの呼称を「正山夏祭り」から「正山風の祭り」と改めました。

京の森の「風」の意味

京の森は正山小学校の校歌にも出てきます。当初はイルミネーションを作りやすい「正」の字に決めかけていましたが、

大野和町長の「風おこし」の「風」にしようということになりました。正山地域の人が持っている心意気「風おこし」この気持ちを京の森に雄

大にキラキラ輝くイルミネーション(心の灯)として、平成元年から祭りのメインイベントとして点灯してきました。



イルミネーション「風」

イルミネーション「風」の設置の苦勞

地主3人のご理解とご協力により、木の伐採を地元の有志、役員等で行いました。本体の6本のポールは電話工事を営んでいる共栄電気通信建設に、電気配線工事は、沖野電気の方々にお願ひし設置することとなりました。一番苦労したのは、正山小学校の運動場から京の森を眺めた時と、現場からの方向性、位置の食い違

いでした。試行錯誤の結果、一番良い方向、位置に設置することができました。機械の力と専門家の技術に感服した次第です。お盆の真夏の炎天下、足場が悪く高いところでの作業なので、体力も消耗してなかなか大変です。

イルミネーション「風」への思い

正山に生まれ育った子ども、帰省客(家族の兄弟、孫)に正山の夏祭りは良かったと思ってもらえるよう、また都会へ出て行つても、正山へ帰りたいと思おうようなすばらしい地域になるよう願っています。現在は、8月14日に正山風の祭りを行っています。一年に一回のイルミネーションの点灯だけではなく、クリスマスに向けてのイルミネーションも実現したいと思っています。



京の森をバックに運動会